

平成 28 年 11 月 16 日

九州工業大学

関係各位

英彦山における実空間コミュニケーションの実証実験を実施

九州工業大学ネットワークデザイン研究センターは、総務省戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE) (※1) の委託を受け、株式会社 i D九州デザインセンターと共に、実空間情報連動型ネットワークシステム (rSpace) の研究開発に取り組んでおります。本研究プロジェクトでは、来る 2016 年 11 月、福岡県田川郡添田町および英彦山神宮 (※2) のご協力のもと、同町の英彦山を対象として、開発したシステムを用いた実空間コミュニケーションの実証実験を実施します。

※1 : http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/scope/

※2 : <http://hikosanjingu.or.jp/>

■実験日時

2016 年 11 月 21 日 (月) 10:00 頃～14:00 頃 (雨天時は順延)

■実験内容

福岡県田川郡添田町の英彦山の登山道にて、登山客支援を目的とした実証実験を行います (図 2 参照)。「困ったから助けて欲しい」等を駆け付け可能な近隣登山客へ発信、または、特定エリアに近づく登山客への通知 (通行止めの案内等) を、開発した rSpace サーバと rSpace アプリケーション (図 3 参照) を用いて現実フィールドを対象に実証します。

■実空間情報連動型ネットワークシステム (rSpace) について

現在普及している SNS は、一定の関係性を持った「人」とのつながりをベースとした「仮想空間」上でのコミュニケーションツールであるのに対し、実空間情報連動型ネットワークシステム (rSpace) では、人々が実際に生活している空間すなわち「実空間」を対象として、実空間上で直接的なコミュニケーションを行える可能性のある人々同士をネットワーク上で結び付けること、あるいは情報共有を図る、といった内容を実現させることを目指しています (図 1 参照)。

私たちが開発した rSpace システムは、ユーザが持つスマートフォンやパソコンなどの情報通信端末で動作する rSpace アプリケーションと、クラウド上で動作する rSpace サーバシステムが、LTE 等の広域無線通信網を介して相互に通信し、連携することにより実現されます。

本システムにより、助けを求めている人の情報を、実際にその人を助けに行ける範囲にいる人々に対して適切に配信することが可能となります。これは、例えば山岳事故発生時における情報共有ツールとしても有効に機能すると考えています。また本技術は、特定の地域にいる特定の属性を持った人々同士の通信手段として適用することも可能であり、これにより、例えば大規模災害発生時における避難所エリア等において、当該エリア内での女性同士だけのデリケートな情報共有ツールとしても活用可能となると考えられます。

この他、大規模イベント会場での特定の属性（国籍等）を持った人同士のコミュニケーション、あるいは特定エリアを対象としたリアルタイムな見守りシステムの構築、さらには一定エリア内におけるセンサー情報共有システムへの応用等、“r-Space”の適用分野は多岐に及ぶものと考えられます。

今後、現場（実空間エリア）付近での情報共有が何よりも求められる非常災害時等、今後の地域社会における様々な分野での安心・安全を確保していくために必要となる新たな情報通信プラットフォームの一部として、本技術が幅広く活用されるよう研究開発を進めていきます。

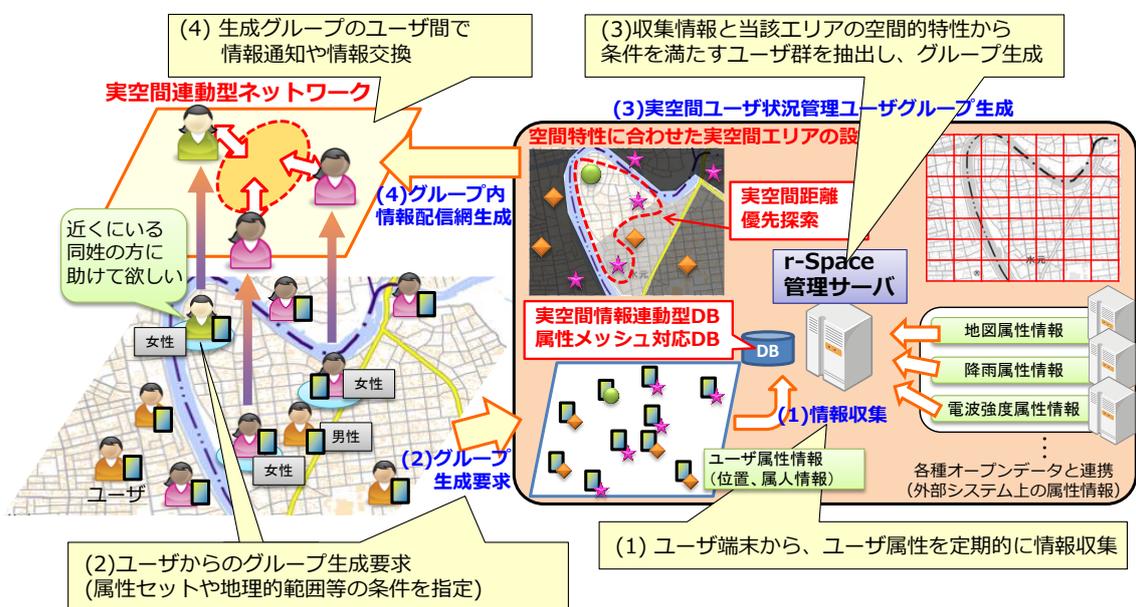


図 1 実空間情報連動型ネットワークシステム (rSpace) の概要

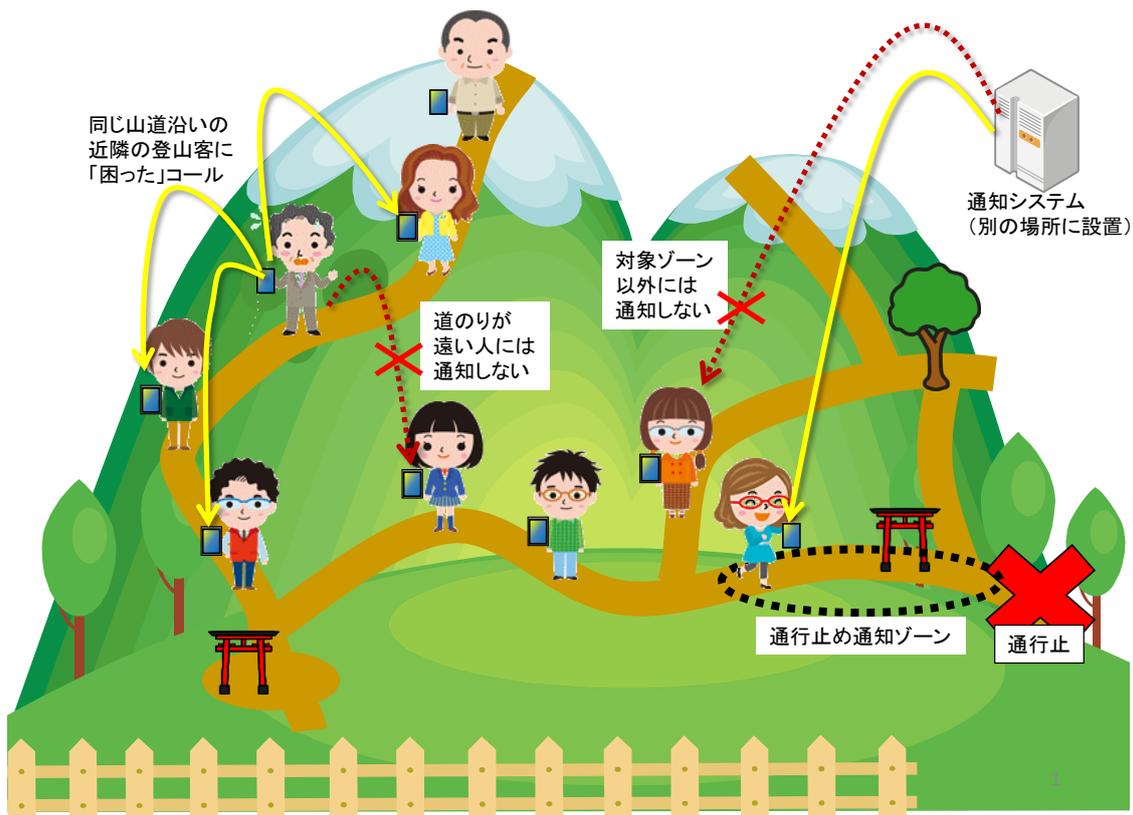


図 2 実験概要

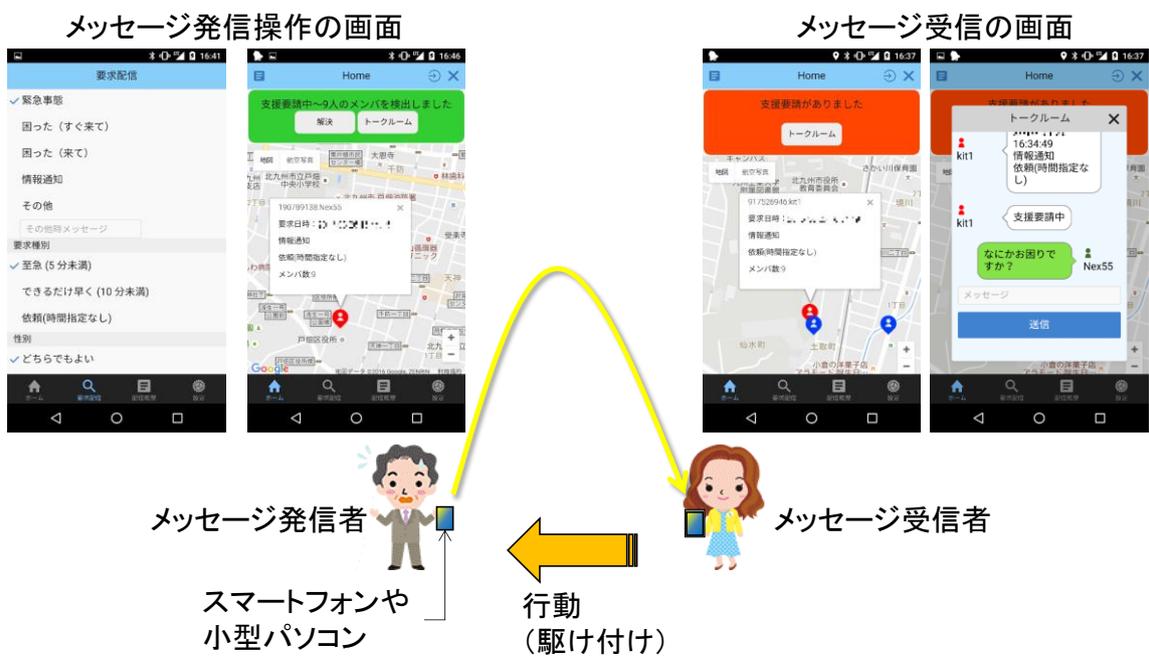


図 3 開発したアプリケーション

■関係機関

九州工業大学 ネットワークデザイン研究センター

(福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1)

株式会社 i D 九州デザインセンター

(福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目7番22号 第14岡部ビル8F)

添田町役場

(福岡県田川郡添田町大字添田 2151)

■福岡県田川郡添田町と九州工業大学ネットワークデザイン研究センターは、平成26年8月より、お互いの協力関係を深め、双方の情報通信事業の更なる活性化を図り、豊かな地域社会創出に貢献していくことを目的として、情報通信事業に関する包括連携協定を締結しております。

以上

本件に関するお問合せ先
九州工業大学
ネットワークデザイン研究センター
Tel : 093-884-3297 池永、永田